



春



第7巻第3号
通巻第75号

発行所 東京都杉並区成田東4丁目3番44号 〒166-0015からす新聞本社
からすホームページ <http://www.go-karasu.com/>

投書・お問い合わせのE-mail : colors@go-karasu.com

我が父信夫は、極めて明晰な頭脳を持つた人で、かつ、感性も大きに豊かであり、おまけに穏やかな性格をしていたもので人望も篤く、欠点らしい欠点などない人であった。どうしても挙げると言われれば、運動神経の悪さ、身体の弱さに触れるしかないだろう。当然、彼に学ぶところは多かつたし、生きていけば学ぶべきところはまだまだたくさんあっただろう。近頃、よく思い起こすのは、彼の、政治に関して語ることをしない、という姿勢である。家庭では政治や経済などなどの社会全般に互つて、あれこれと意見を述べていたが、著作や公の場で、つまり、学者としての立場においてはその手の話題を語るつもりはない、ということであった。土台にあるのは、学問は学問として独立してあるべきだ、ということであろうし、学者たるもの学問を通じて意を表するべきだという念もあつただろうと思う。このことを思い出す度に、私も父の姿に学んで、音楽や文章を通じて社会に関わっていくべきであつて、政治や社会の批判めいたあれこれを直接的に書いたり喋ったりするのはやめよう、と

幾度となく思うものである。

母の父、忠三郎爺さんはひたすら真面目な人柄でありながら、死を目前にした病院のベッドの上でも悪巫山戯で孫をどきまぎさせるような遊び心もあり、大変面白い人物であつた。今になつても感心するのは、爺さんが他人の悪口を一切言わなかつたということである。先に記した温厚な私の父が見習いたいものだと思れ入るほどであつた。生きている限り、全く腹が立つことなどなかつたということもないだろうから、瘦身ではあつたけれど、あれこれの不満を収めるだけの度量、太い腹を持っていたのだろう。私も爺さんを見習つて、金輪際他人様の悪口は言つまい、と、これまた何度となく思うのである。

親父や爺さんに学ぶ、などと言つてはいるけれど、「何度となく思つている」という書き方が示す通り、結局はいつだって守れやしないんだよ、というのが、私の実情である。御先祖様に面目ない有り様。しかしながら、政治家というよりは政治屋、企業家

(最終面に続く)

今日の紙面から

一・三画 (hola)

道夫おじやの家

四・五画 からすライブラリー

CD 『Traffic Signals EP』

本 『柔らかな顔』

映画 『ビッグ・フィッシュ』

六画 (ロンドンレポート)

言葉ではなくて

七画 (語面)

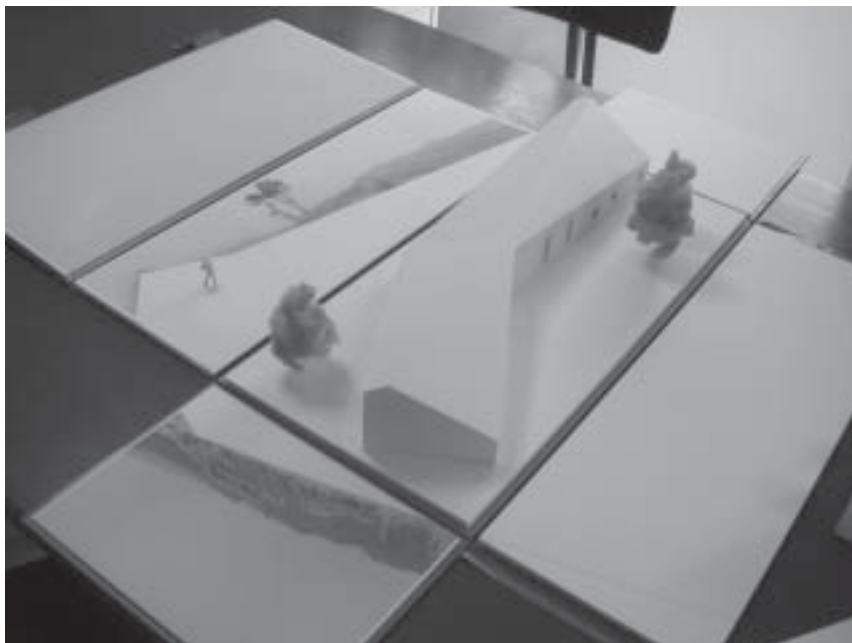
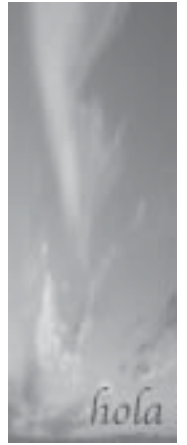
なぜチキンは道を渡ったのか?

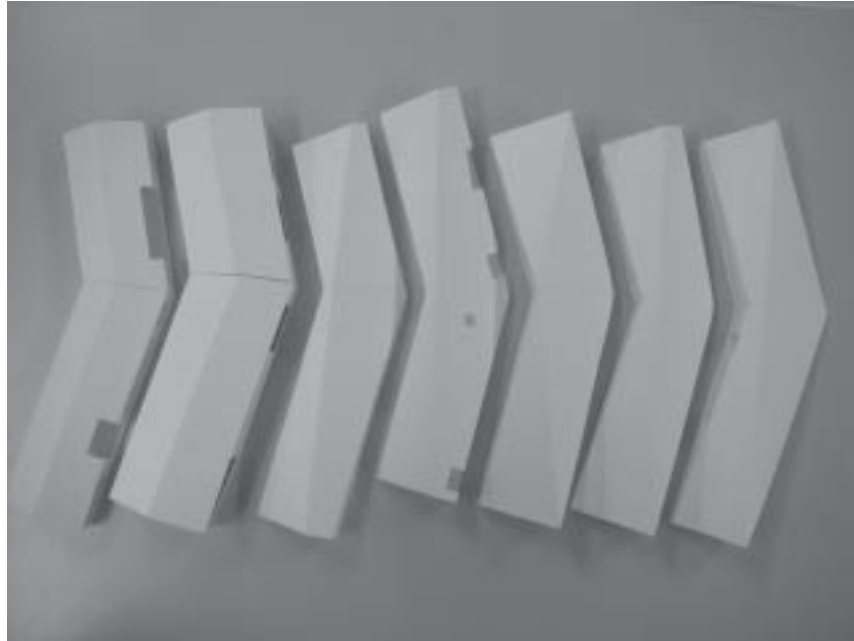
からす新聞は××××
が母体となつて、世界に文化と芸術を発信すべく発行しています。

誰でも自由に参加できます(無茶じゃない範囲で)。

今日は、ひとつあらたなプロジェクトを紹介しよう。道夫おじさんの家である。場所は千葉県勝浦市、海岸から2キロメートルほどの小高い山のほほ頂き。眼下に原生の森がひろがり、自然保存のトラスト運動も起きようとしている。将来、定住することも視野に入れた週末住宅である。豊かにひろがる風景をとりいれるように、たてものを敷地境界にそって「く」の字型にした。屋根の稜線を、たてものの平面形とずらして一直線にすると、たてものの内部は、あまり見たことのない変化のある空間となった。普通の形態に単純な操作を加えることで、ちょっと刺激のある楽しい雰囲気をつくれそうだ。シンプルなことはい。現在、窓をどうやってあけるかを検討しているが、なにやら普通の窓というものとは随分異なるものになりそうだ。これもどれだけ単純な考え方で整理できるかである。これから2ヶ月ほどで、この計画も完了する予定である。今度また、ものをつくる過程を報告したい。

(篠崎健一)







『ビッグ・フィッシュ』

監督/ティム・バートン

原作/ダニエル・ウォレス

出演/ユアン・マクレガー、アルバート・フィニー、ジェシカ・ラング

配給/ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



久々に、楽しい映画を観たような気がした。そしてわたしは、二つのことを再確認した。なんだかレポートみたいになつてしまつが、今回はこのように書くことと思つ。

一つは、「必要なものは必要、不要なものも必要」ということ。

映画の中で語られる話は半ば夢心地で、そう、まるで夢を見ている時の訳のわからないそんな展開があちらこちらに鑲められている。作品としてここにこれがあるべきだという理由がまったく感じられない、理由もないような演出なのだ。しかし、確かなのは、この映画におけるそんな展開は、この映画に無くてはならない雰囲気を作っていた。そしてそれが、物語をより面白くさせていた。

とはいえ、現実には生きていく分には、理由のある感覚こそが重視される。理由も説明できないようなどこにも属さない感覚は不要だとみなさる。本当にそれでいいのだろうか。全てが完全なる解答をもとに生み出されるのであれば、それはつまらないものにならないだろうか。わたしは、そんなことを考えた。勿論全てが理由なしで生まれていたら、それはそれで自然界のなかに身をほうり投げるようなものなだけだ。

もう一つは、「世の中や身の回りにおける状況は捉える人によって違う」ということ。

例えば、曇りの空も青空に見えてしまう、想像力。それが前向きさだという人もいるだろうし、現実逃避だという人もいるだろう。けれど誰が見ても色眼鏡なら、良く見えるほうがいい。御飯を食べながら「美味しい、うまい」と言つた方がいい。「不味い」は、そう感じたとしても場合によっては言うべきではない。

わたしたちは、いや、少なくともわたしは、気づかないうちに確実に、屁理屈を言う人をつまらなく感じ、楽しいことをする人を素敵だと思つている。という時点で、わたしにも十分な色眼鏡があるわけなんだけれども、現実的に楽しいことという人に楽しくない人はいない。それは、観点が楽しいからだ。つまり、今が泥沼ならば、自分が泥沼だと思つて間違いないだろう。故に、泥沼の恋愛はつまらない。・・・なんて、先日の話に逸れてしまったが。

さて、この感じた二つは、本編が意図していたものとはおそらく関係のないところにある。

では、この映画とはなんだろう。

ようは、創造力って、想像力だ。想像力も、創造力なのだ。

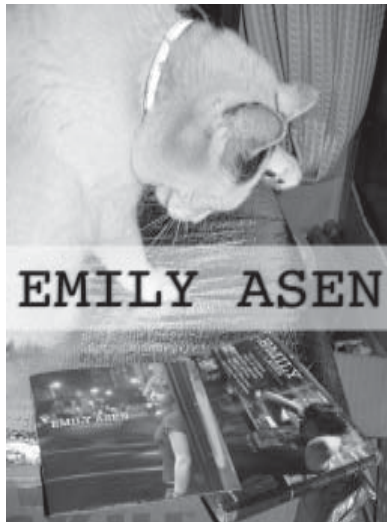
ビッグ・フィッシュはまさにそんな話、そんな映画である。(と)



『Traffic Signals EP』

Emily Asen

2004年、www.emilyasen.com/



柔らかな頬

桐野夏生

講談社、1999年、ISBN4-06-207919-4



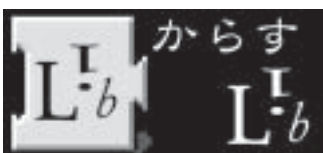
捻くれた音楽ばかり聴きすぎたせいか、戯けた社会に採れすぎたせいか、この素直な音楽が妙に心地好い。中学生なのか高校生なのか。兎にも角にも、率直に心から零れ出てきたような、等身大の言葉が良い。豊富でない語彙が強く響く。

この飾りの少ないデビューEPを踏み台に、どのように成長していくのか、興味深い。近所だったら生の演奏を見に行きたいところだけれど、地元のニューヨーク界隈でギグを重ねている様子。少々私には遠すぎる。次のアルバムを楽しみに待つとしよう。

(全太)

同作者のOUTがテレビドラマ化の後、映画化までされた作品ではあるのだが、直木賞の候補になったままで受賞には至らなかった。その後、直木賞を受賞したのが本作である。そういう意味では興味深い作品と言えるだろう。昨今、幼児に対する暴力には目に余るものがあるのは周知の事実だ。本作は直接的な暴力の描写が有るわけではないが、理不尽な運命を辿る子供やその家族の末路、それを取り巻く様々な運命に翻弄される人間達が克明に描かれている。凶らずも死を目前にした者と、生きる目的を必至に探す健常者。少々大袈裟かもしれないが、現実の世の中で、この両者の間に共通点が生まれる事は有りえるのだろうか。当然ながら、作者にも読者にも答えを出せるものではないだろう。

(小張真僧)



ろんどん つうしん
London Report

日も長くなり、もうすぐ春かなと思っていたが、その日はなんだか凄く寒かった。凍えてしまうぐらいだ。たまたまそのカフェの近くに行く用事があったので、久しぶりにそこで昼食を食べる事にした。

の。砂糖を沢山入れて、缶コーヒーのような温かいコーヒーを飲む。どうしてか、そのカフェから外の通りを眺めていると、TVとか映画を見ているような気がしてくる。四角い枠の中に写った外の景色。

2・7。
チーズバーガー&チップスとコーヒーで£
コーヒートンと、ブラックかホワイトかは聞かれずに、自分から言わない限り問答無用でミルクが入る。普段はブラックなのだが、ここに来た時はホワイト。郷に入るとは郷に従えと言う気持ちなのか。砂糖を沢山入れて、缶

言葉ではなくて
学校の側にあるカフェは結構好きだ。アメリカの映画に出てきそうな、レトロで大衆的な雰囲気。余り頻繁にそこで昼飯を食べる訳ではないのだが、たまに一人で昼飯を食べに行く。それも何だか寒い日によく行っている様な気がする。どういふ訳か、気温が低い時によくそのカフェを思い出すのである。そう言えば雪がちらついていた日にもそこで昼飯を食べた。

帰りのバスの中で、そんな事を思った。表通りには早咲きのサクラが花を付けていた。
何を言っても始まらない。

多分、何を言っても始まらない。そんな言い訳や憤りを、腹の中にじつと押さえつけてる為に昼飯を詰め込んだ。一言も口をきかないで、身体だけ動かそう。洗濯でも掃除でも勉強でも、とにかく出来る事、全部、やってしまえ。

やっぱりチーズバーガー&チップスとコーヒー。甘ったるいコーヒーを飲みながら外を眺める。室内の温かい温度が身体に染み入る。
どうして何かが上手く行かなかった時や、何かに失敗した時には、色々と思い浮かぶんだらうか。言いたい事が次々と溢れてくる。「あれがこうしてなければ」とか、「先に知らされているべきだ」とか、止まらない。でも、そのほとんどは言い訳。自分の失敗を、懸命に誰かの所為にしようとしている。頭の中でそんな言い訳達が次々と生み出されて行く。その醜い言い訳になのが、失敗に対してなのか、言い様の無い怒りを必死に腹の中で押さえながら、外を見ていた。バーガーとチップスが運ばれてき、何も考えずにただ外を見ながらバーガーを食べた。いつもは多く感じるチップスも一気に平らげ、残っていたコーヒーを飲み干し、カフェを出た。
どつしよつもない気持ちは何処に行けばいいんだ。

(神山)

神戸支所近日オープン！

あなたの平穏な生活を脅かすストーカーを本場米国で培った最新の技術と装備を駆使して退治します。
あなた一人で悩まないでください。

ストーカー バスター

相談無料
秘密厳守

防犯用品販売・
防犯対策指導も
致します。

produced by

P.D.Agency

tora@pda.co.jp

4-3-49-1, Suginami-ku,

Tokyo 166-0015, JAPAN

voice : +81-5347-9063

facsimile : +81-5347-9064

WHY DID THE CHICKEN CROSS THE ROAD 2



なぜそのチキンは道路を渡ったのか？
そんなのチキンに訊いてみなければわからない。3年ぶりに各界の意見を聞いてみたい。

みなさん、何故チキンは道を渡ったんですか？

- 朝青龍 : 物足りなかったんじゃない？
- 韋駄天 : でももうここは通りたくないです。
- 詐欺師 : もしも警察ですがご主人がですね、オレやっちゃったようでしょう、この際私の方も示談でいいですよ。
- 総理 : チキンもいろいろですから。
- 断層 : 動揺したんで。
- ヒエダくん : きっかけはフジテレビなんだ。
- 米国产牛肉 : やつら全頭検査ないもんな。
- ホリエくん : ちゃんと横断歩道を渡ってましたよ。
- ゆとり教育 : 俺に聞くなよ。

Why do you think the chicken crossed the road?

Adam :
The woman whom You gave to be with it, she lead it, and it crossed.
(アダム: 神様、あなたが遣わされた女、彼女が導いたんですよ、だから渡ったんだ。)

Eve :
The serpent deceived it, and it crossed.
(イヴ: 蛇が騙したのです、だから渡ってしまったのです。)

kate Bush :
The chicken's me, I'm Cathy, I've come home
(ケイト・ブッシュ: そのチキンは私よ、私キャシーよ、帰ってきたのよ。)

George Bush :
I believe that God wants every chicken to cross the road.
(ジョージ・ブッシュ: あらゆるチキンがその道を渡ることを神は望んでおられると、私は信じています。)

Martin Luther King Jr. :
It had a dream.
(キング牧師: 夢があったのです。)

Grandfather's Clock :
But it stopped short, never to cross again, when the old man died...
(大きな古時計 : 二度と、もう、渡らない、そのチキンー)
(望月)

Your Missing English - 学校英語に忘れものありませんか？ retrospective

Monday, Mar. 28, 2005 - Sunday, Apr. 16, 2005 (closed on Tuesdays)

at 

It's come out.



Yeah, it's emerged.

Piggy played guitar . . .



The old sea, ah!
An elephant jumps in:
The water's sound!



(一面から続く)

というよりは金業家、公務員というよりは公無員というような連中の、不愉快千万な言動を目にしては堪え切れず、ついつい、ぶつくさ愚痴を零してしまふ心情、同じ時代を生きる人々なら少しは理解していただきたいと思います。……と、甘えている場合ではない。

音楽や文章で何かを表現することに実際どれだけの力があるのか。

例えば、あさがやんずが、

限りのない霧の夜は
幻影がもやもやくる。

風吹けば

ゆらりゆらりとほくたちは揺れる。

今日も何もなかったね。



万年筆なら dani

<http://danijapan.com/>

bar&kitchen kanna

お一人でも気軽に楽しめる、食事もできるShotBarです。ビール、バーボン、焼酎からカクテルまで、豊富なお酒と、季節の素材を取り入れた手作りのオリジナル料理を、4/500円~と手頃な料金でご提供いたします。

木とテラコッタを基調にしたギャラリー風の店内は舞台スタッフの手作り。ぬくもりの中に遊び心が溢れ、くつろげます。作品の展示、音楽、演劇等のイベントも企画スペースの提供も行っておりますので、興味のある方はご相談ください。

各種パーティー、打ち上げにも最適です。

と、昨八月に唄い、十一月にも唄ったのだけれど、それが一体何になったのだろう。そこにいた人々の心に何か少しでもざわざわした気持ちを起こしたのだろうか。ううむ、全く以て心許ない。いやいや、これはいくら何でも例が酷すぎる。音楽を例に取るならば、あさがやんずなど及びでない、もっともっとと相應しいものがいくらでもあるではないか。例えば、「イマジジン」風に吹かれて「ノー・ウーマン、ノー・クラ イ」。どうだろう、すぐに思い浮かべることが出来る人も少なくない筈だ。これらの曲は、世界中のあちらこちらで聴かれ、唄われ、多くの人々に平和を希求する心を植え付けたのではないだろうか。反戦運動を批判するつもりはないけれど、凡百の活動よりもこれらの音楽が果たした役割の方が大

きい可能性さえあるのではないかと、思う。もっとも、どんなに素晴らしい音楽であつても聞く耳を持たぬものには届かぬわけで、プッシュに代表されるような野蛮人の心を改めるには至っていない、という現実もあるけれど。

兎にも角にも、私は、御先祖様に習って、今後は政治や社会の批判の類を直接扱ふことはしないし、他人様への非難を一切口にせぬつもりである。美しい音楽や文章を書くことに専念し、真善美を、少しでも今よりはましな世界を、安らかな心を求めていこうと思う。ピース。

もっとも、例外のないルールはない、などという都合の良い言葉もあるわけで……。

(全木)



Ken-ichi Shinozaki,
architect

Voice : +81-3-3220-0644
Facsimile : +81-3-3220-0640;
e-mail: geta-s@t3.rim.or.jp
篠崎健一アトリエ

編集後記
からす新聞第七巻(三号)通巻第七十五号、無事、発行できました。

新聞に限らず、これからも新企画目白押しなので、みなさんの御協力をお願いいたします。

御意見・御要望をぜひお寄せ下さい。

次号発刊予定日は二〇〇五年四月二十五日です。編集協力者、特派員記者、及び、投稿を熱烈にお待ちしております。

1クラス4人までの少人数制学習塾

ファミマ

中野区本町2-50-12 ドエル中野201号
03-3379-1451

宝仙寺
ファミマ
おうめかいどう
中野板上駅